# 令和５年度第１回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和５年７月 20 日（木）午後１時 30 分～4 時
2. 開催場所 京丹後市大宮庁舎　4 階　第２・３会議室
3. 出席者氏名

（1）審議会委員

田中会長、松本副会長、上田委員、櫛田委員、後藤委員、吉岡弘委員、藤原可委員、増田委員、安井委員、山内委員、吉岡高委員

※　欠席４名（谷口委員、藤原哲委員、丸山委員、山田委員）

（2）アドバイザー

藤野一夫氏、甲斐少夜子氏

（3）事務局

教育次長 引野雅文

文化財保護課 課長 村田雅之

生涯学習課　課長　安達　純、課長補佐 坪倉武広、係長 小森教正、主任 寺島千絵

4. 内容

別紙（会議次第）のとおり

5. 公開又は非公開の別　　公開
6. 傍聴人　　０人

会議録

事 務 局　本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日審議会進行を務めます、生涯学習課の安達と申します。どうぞよろしくお願いいたします。定刻になりましたのでただいまから、令和５年度第１回の京丹後市文化芸術振興審議会を開会をさせていただきます。最初に委員の交代がございましたので、委嘱状の交付から始めさせていただきたいと思います。この内容ですけれども、前任の土出委員が令和５年３月 31 日をもちまして、京都府丹後文化事業団をご退任されたということから、新たに事業団の事務局長になられました、吉岡弘志様に委嘱状を交付させていただきたいと思います。

（委嘱状交付）

吉岡委員　今ご紹介いただきました、丹後文化会館の館長兼財団の事務局長ということで、4 月 1 日からお世話になっています吉岡といいます。どうぞよろしくお願いいたします。この丹後地域の文化の向上のために、微力ですが振興に努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。簡単ですけれども挨拶とさせていただきます。

事 務 局　（事務局職員の異動の紹介）

事 務 局　最初に、田中会長からごあいさつをお世話なります。よろしくお願いいたします。

田中会長　皆様こんにちは。久しぶりに本当に皆さんのお元気そうなお変わりないお顔を見せていただいて大変嬉しく思っております。今日、梅雨が明けたようです。本当に教育委員会の皆さんは会議の準備とか大変な思いをしておられたと思いますけれども、わくわくするような会議で、色んな意見が出てきて、皆さんご意見もたくさんおっしゃっていただきますので、明るい楽しい文化審議会の会議で進めさせていただきたいと思いますので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局　続きまして松本教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長　改めまして皆さんこんにちは。本年度最初の京丹後市文化芸術振興審議会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。まずは皆さんには日頃から教育行政に関わりましてご理解とご協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。さて、会長さんからもありましたように、この審議会につきましては昨年一昨年、2ヵ年にわたりまして、今日も資料として配付させていただいていると思いますが、文化芸術振興計画の方を策定していただくために色々と審議を重ねていただきまして、ようやくこの3月に、こうした立派な冊子となって、計画も出させていただいたというところでございます。この2ヵ年のプランを立ててきた段階から、本年度はいよいよこれをどのように実践し、それを委員の皆様方にもチェックしていただきながら、進捗管理をしていきながら、より良い方向へ持っていくのかというところが重要な年度になってきているのではないかなというふうに思ってるところです。皆さんもご存知のように、ゴールデンウィーク以降にコロナが5類へと移行しまして、従来の形で文化芸術についても色々な取り組みができるような状況となっております。学校におきましても、1学期は中学校の方で芸術文化関係では合唱祭が、例年通りに近い形で本年度は実施されておりますけども、そういう中でもコロナのことも少し考慮し、色々と工夫しながら取り組みを進められているということで、子どもたちにとっても芸術文化に触れる機会が比較的多くなる、そういう状況になってきているのではないかというふうに思います。先日、文化会館で実施されました、安達朋博ピアノリサイタルの方に招待を受け行かせていただいておりました。そこで見させていただいて、文化芸術の成果の部分と課題の部分が両面見えたなというふうに思っているところです。安達さんのご厚意ということもあって、子どもたちが無料で鑑賞できるということで、本当に多くの子どもたちが家族の人と一緒に鑑賞されていたというところについては、本当に家族の中でも文化の広がりがあって、そして静かに芸術を鑑賞するというマナーであるとか、そういうものもしっかり学んでくれたのではないかなというふうに思って嬉しく思ったところです。最初からステージの左側の方に多くの子どもたちが集まっていたので、何だろうなと思って聞きましたら、指使いをしっかりと見るために左サイドに多く子どもたちは座って、どういうピアノの指使いなのかをしっかりと学ぶためにあちらに座ってるなんて話も聞かせていただいてなるほどなと思ったところであります。ただ一つ残念なのは、そんな大ホールでピアノリサイタルをされる安達さんの地元凱旋のリサイタルという中での人の入りですね。そういうところを思うと、少し残念な部分もあって、もっと超満員になって聞いていただけたらどんなにいいことだろうなと、成果と課題の両面を感じさせていただいたところであります。そういう意味もありまして、こうした振興この文化芸術振興計画の方がより浸透し

まして、子どもたち、そして市民の皆さんの芸術文化がより発展しまして、この計画にもありますような文化芸術を楽しみ、人が輝く京丹後というのがより推進されることが、一番望んでいるところでございます。本年度からいよいよそうした進捗管理も含めて委員の皆様にはお世話になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局　（資料の確認）

事 務 局　ここから先は田中会長に議事進行をお世話になりたいと思います。よろしくお願いいたします。

田中会長　それでは議事に入らせていただきます。まず、今日の審議会のレジメにあります議事の１番の文化芸術振興審議会について、事務局よりご説明お願いいたします。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　今の事務局からの質問、説明についてご質問等ございませんか。無いようでしたら先に進めさせていただきます。2 番の令和 4 年度文化芸術関係事業について、事務局の方より説明をお願いいたします。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　事務局からの説明についてご質問、ご意見等がございましたら、お願いできますでしょうか。なければ先に進ませていただきます。3 番の令和 5 年度文化芸術関係事業について、事務局より説明をお願いいたします。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　今のご説明に対してご意見とかご質問等、どなたかございませんでしょうか。はい、藤野先生お願いいたします。

藤野ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　いくつか確認をさせていただきたいんですけれども、昨年度に振興計画ができたということで、その基本施策に基づいて今年度の事業計画が整理されたものだと思います。今いろいろ見比べながら見ていたので、ちゃんと把握できているわけではないんですけれども、この中でいわゆる新規事業とされるもの、これが何なのかということ。それから、新規事業ではないんだけれどもちょっと見方を変えると統合するとか、打ち出し方を変えるようにちょっとアレンジし直したものが何なのかということ、それから逆にこれまであったけれども、取り止めてしまったものもあるかもしれない。例えば、アーティストインレジデンス事業は平成 30 年から令和 3 年までございましたよね。それが今回は抜けているのも、これは終わったということなんですね。その終わった理由っていうのもお聞きしたいと思います。例えば、今回寺島委員が入られて、マネージャーとしていろいろご活躍をされるんだと思いますけれども、初っ端に出てきています京丹後アートフェスティバルの開催っていうのは、かなり長い期間にわたり 9 月 23 日から来年の 2 月 25 日という半年に及ぶものですね。フェスティバルって普通 2 週間とか 3 週間とかというものが多かったりするんですが、例外的には隣の城崎でやっているアートシーズンのように、既存のものをプラスαちょっと何か付け加えて見え方をうまく演出してるようなものもあると思います。このアートフェスティバルの開催は半年に及ぶもので、色んな内容があるんだと思うんですけれども、これが一体、どういうミッション、どういう性格のものなのか、新規事業だとしたら、もう少し詳しく説明していただきたいなと思います。それから、同じ基本施策の 1 のところの 8、9、10 のと

ころは補助金関係ですね。これは今まで既存の流れでもって行われてきたものだと思うんですけれども、例えば丹後文化事業団に対する運営補助金は、いわゆる指定管理料みたいなものでしょうから、こちらでどうこういえるものではないかなとは思います。2番目の文化協会に対する補助金とか、まちづくり推進事業補助金とかというものっていうのは、自治体によって違うんですけれども、これまでの既得権益的にある団体に、何十万円とかって形で、何の審査もなく回っているものあれば、そういうのを見直して、世代交代とかありますので時代の変化をちゃんと踏まえた上で公募して、選定過程も透明化していく、いわゆる公募型にしていくっていう自治体もございます。それをどこでやるかというのはまた難しいんですけれども、行政内部ではなかなかやれないというか、本当はやるべきことではないので、専門家も入れて審査委員会を作って、そういった選定をやるってこともあるし、この審議会の中にワーキングチームを作ってそういった選定をやる、或いはその評価までやると、それはいわゆる一種のアーツカウンシル新機能なんですけど、そういった自治体もあります。ですのでこの 8、9、10、並んで補助金補助金補助金って出てきていますけども、これは他のものとちょっとタイプが違うものですので、この辺の扱いを審議会としてどうしていくのかっていうことも、少し検討してみた方がいいんじゃないかなと思います。それから、何よりも気になったのは、2年かけて皆さんのご苦労があって計画ができたわけですが、それによって全体としての文化予算の確保、拡大というのにこれが繋がったのかどうかということです。普通は国にしても何でも、条例、法律が作られたり、基本計画が作られると、少し瞬間的に二、三年は予算が増えるってことがある。また減ることもあるんですけども。今回これができて、年度末でしたけども予算的に文化予算に新規事業もあるんだからといって、予算の増額があったのかどうかっていうようなことです。大体こういう審議会にこういう予算の細かいことが出ることはあまりないんですけど、やはり、せっかく苦労して作ってきた計画ですから、ちゃんとした内容のプロジェクトをやろうとしたら、それなりの予算を確保するっていう筋道が当然だと思うんですよね。その辺が審議会の一つの資料として上がってくるといいなと思います。以上です。

田中会長　事務局お願いいたします。

事 務 局　ありがとうございます。まず、最初のご質問がありました新規事業、かなり沢山紹介してしまいましたので、ちょっと整理させていただいて、新規事業と言いますと今おっしゃっていただいた通り、この京丹後市アートフェスティバルというのは初めての取り組みになります。全てを市で賄うわけではなく、地域などでそれまでからやっておられたような活動なども組み合わせたりして、一体的にＰＲとか実施をしていこうというふうに考えておりまして、この目的としては、市民の皆さんが文化芸術に触れる機会を多く作りたいというふうに考えております。色んな活動をされていてもなかなか、どこで何をしているかわからないというようなこともお声としてありましたので、そういった情報も集めながら発信もしながら、一定期間、ちょっと長い期間ですけれども取りまして、各地で行われているような活動をめぐっていただいたり、知っていただいたり体験していただいたりできたらいいなというふうなことで考えております。会期も 9 月 23 日から 2 月 25 日と長くなっております。これは、9 月、10 月ぐらいから「知るプログラム」というのがまずあります。これが先ほど

も言っておりましたが地域のアーティストさんに 3 組、ワークショップをしていただこうと思っておりまして、1 組のアーティストにつき 5 回ぐらいのワークショップを考えておりますので、一定ちょっと時間がかかるかなというふうに思っております。一つ目は絵画ということで、ちょうど今年度はこの小牧源太郎さんの絵画展もするということもありますので、壁画のアーティストさんを今ちょっと考えているんですけれども、この小牧源太郎さんの絵画をテーマにしながら創作ですとか、考えていくようなワークショップを考えています。二つ目のワークショップで今考えておりますのが、陶芸の方を考えております。この時にちょっとモチーフにするのが、資料館が京丹後市内にありますので、昔の道具だとか、そういったところを見ながら、陶芸のワークショップをしていこうというふうに思っております。いさなご工房も使いながら、陶芸をしていきたいなというふうに思っております。もう一つのワークショップは、ダンスの方をちょっと考えております。文化会館を使わしていただいて、身体表現というようなことを、ジャンルとしては考えております。それぞれのワークショップを 5 回ずつするということになるので、ちょっとかぶる時期もあると思いますけれども、少し長く取らせてもらっているというのが一つそれがあります。それともう一つ大きな柱として、先ほどは「知る」とか「体験する」ということだったんですが、今回「見るプログラム」ということも考えておりまして、京丹後市内を会場に開催される色々なアートイベントなどを包括して、鑑賞の機会を作っていこうというふうに考えています。連携できるかなと今思っているものが、「丹後文化芸術祭」ですとか、あとは「三津のちいさな芸術祭」この辺りは 9 月にありますし、あと 10 月から 11 月は先ほどもちょっと言及しました「ECHO あしたの畑」というような NPO 法人さんがされるアートイベントが行われるので、これも連携したいなというふうに思っております。あと市の主催で 11 月ぐらいに小牧源太郎の作品展、こちらも連携をしたいというふうに思っておりますし、あと障害者の方のアート作品を展示するというような「TANGO まるっぽ美術館」、これも大体 11 月ぐらいの 2 週間ぐらいを予定されているようですので、連携したいなと思っております。あと丹後万博っていうのも昨年から始まりまして、実行委員会でされておりますが、そういったところも連携していきたいなと思っておりますし、先ほど言いました落語の体験も新規の事業ということになりますけれども、こういったところも本物の芸術文化に触れるという意味で、このイベント期間に一体的に発信をしていこうと思っております。発信の手段としては、色んなＳＮＳとかも使うんですけれども、紙ベースのデザイン的なマップを作りまして、長い期間ですので、この期間マップを手に持ってもらって周遊してもらうというような、自ら周遊してもらうのもそうですし、ちょっと毎回はできませんけれども、周遊のそういうイベントといいますか、バスを走らせてっていうようなことも、計画をしているようなところです。そして一定期間こういった取り組みをしますので、それを報告するような場を作りたいなと思いまして、シンポジウムといいますか報告会というのを最後、2 月 3 月に行えたらなというふうに思っております。一過性なものではなくて、今後もこういった色んな文化芸術の取り組みを、京丹後市全体として進めていくんだというふうに繋げていけたらいいなと考えているところです。新たなものと言いますと、京丹後のこのアートフェスティバルと、落語のワークショップというのは新たなものになります。そしてアレンジといいますか、取り組み

は始めていたけれどもというところで言いますと、この街角ピアノなども貸し出しのピアノっていうのを今ちょっと考えております。修繕はできましたので、あと貸し出しする要綱を今整えているようなところになります。あとは、やめた事業というと、アーティストインレジデンスは京都府さんの事業ということで、一定いつまでというのが決まっておりまして、その通りに終了したということになります。ただそこで来ていただいたアーティストさんがこの「三津のちいさな芸術祭」というようなことも取り組んでいただいたりして、根づいているところもございます。あとは補助金のところのお話をいただきました。丹後文化事業団運営補助金というのは京都府丹後文化会館を管理されている事業団さんが、運営がスムーズにいくようにということで、事業費も含め過去からご支援させていただいているものになります。あと文化協会さんも、事務員さんの人件費なども含め、活動費を一部補助金を出しているというものになります。文化のまちづくり推進事業補助金というのは、文化のまちづくり実行委員会さんに、本当に金額としては少ないですけれども、活動の補助ということで5万円程度出させていただいているということになります。あと予算のことですが、計画が策定されたということで、文化関係の予算というのが、文化関係と文化財関係ということでちょっと考えますが、文化関係予算は約3700万円になります。前年比でいうと7.5%ほど増しております。文化財の関係の予算については、約1億400万円ということで、前年比 12.7%増というようなことで、やはり計画を作って進めていこうというところが、一つ増額の理由にはなっているのかなというふうに思っております。以上です。

藤野ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　ありがとうございます。特に、京丹後アートフェスティバルっていうのは、おそらく今後の看板事業になりますね。だからブランディングに関わってくるところで、見え方というか押し出し方みたいなのが重要なので、パンフレットとかホームページを作るにしても、何かデザイン性を重視したロゴを作ったりとか、これがこの町の新しいアートに対する取り組みの中心なんだって見えるようにすると良いんじゃないかなと思います。それから、後ろの方で、基本方針6の基本政策の2のところ、地域、世代、国籍などを越えた交流を図りますっていうようなところで、一応バスツアーとか色々あるんですけども、多文化共生的な部門、つまり共生社会っていう側面と、あとは文化資源を生かしたいわゆる芸術文化観光みたいなところ、その辺の戦略というのも、今すぐではなくてもいいんですけども、せっかくこれだけ資源のある地域なので、もう少し刺激的なというか目を引くようなものを打ち出していけるといいなというふうに思います。以上です。ありがとうございました。

田中会長　先生ありがとうございます。そうしましたら、ご質問がなければもう1人、甲斐アドバイザーにもお願いできますでしょうか。

甲斐ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　京都府、丹後地域担当のアドバイザーの甲斐少夜子です。藤野先生が色々と全体的な部分で、見える化していただけるご意見をいただけたのかなと思っているんですが、私の方では、ちょっと、修正を1点お願いできたらなと思うんですが、今年度、京都府、あと、丹後管内四つの市町さんと、海の京都 DMO さんの実行委員会で開催する、参加型アートプロジェクトで、こちらkaikoがkaicoとなります。4ページと6ページですね。修正お願いします。

事 務 局　大変失礼いたしました。

甲斐ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　気になる点といいますか、全体的に今までされてきてた京丹後市内での文化活動を、新たに編集されたりとか、より市民の方に触れていただけるような形で見るプロジェクト、知るプロジェクトということで、わかりやすく分けられているのかなと思っています。そして、この数年、先ほどアーティストインレジデンス事業のことも言及していただきましたけれども、そちらの方から派生した事業であるとか、そういうところも京丹後市さん独自の取り組みの中に組み込んでいただけているということで、すごくありがたいなと思っております。私も先日、安達さんのピアノリサイタルに行かせていただいたんですけれども、先ほど拝見したところ、ちょっと昨年度の話になるんですが、丹後万博の方でも街角ピアノのオープニングとしていらっしゃったということで、そういった地元の方を色んな形で招聘されているイベントが、今後も継続的にあるといいのかなと思います。子どもたちは、隣の子とかすごいはしゃいでいて、むしろ振り返ったりとかしていて、耳にこう入ってくるっていう環境自体、そこに行くこと自体が重要だと思うので、先ほど松本さんがちょっと席に空きがあったのかなっていうふうにもおっしゃっていましたけれども、広報も含めて、何かそういうところに働きかけるような、教育委員会さんを通じての広報とか、その辺りも必要なのかなと思いました。今回新たな取り組みになるのかなと思うんですけれども、この広報の部分で、色んなイベント、京丹後市内のイベントについての情報発信というところで、こちらはどういったメディアを考えられているのかなっていうのが少し気になったところです。

田中会長　今のメディアのことのお尋ねがありましたが、事務局は何かお考えがありますか。

事 務 局　メディアの発信ということで、5ページにもちょっと書かせてもらっていますが、広報誌を中心にということになると思います。あまり市でするものぐらいしかなかなか情報として出せていなかったというのがあるので、最近は色んな地域でされていることを、市とか教育委員会の後援をくださいというような話も結構いただくようになりました。後援をさせていただくような場合には、例えば子ども向けのものであれば、小中学校とか保育所等に、チラシ等があれば配らせて貰ったりといったことはさせてもらっております。またホームページは勿論そうなんですけれども、なかなか今全部をまとめるような、そういったサイトなどがないなという実感はしております。アンケートの中でも、なかなかそういった情報に触れることがないと、いうような評価もありましたので、今後そこは方法も含めて検討が重要なところだなというふうに思っているところです。

甲斐ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　京丹後アートフェスティバルという何か大きなタイトルの中で、ウェブサイトといいますか、インスタとかそういったSNS発信をされるのも一つの手段なのかなと思いました。以上です。

田中会長　たくさんの計画の中を整理していただいて藤野アドバイザーと甲斐アドバイザーの方から、今、ご意見、コメントをいただいたんですけれども、皆さん他にございませんでしょうか。

委　　員　一つ感じましたのが、補助金を出していますよっていう仕組みなんですけど、補助金を取るのが難しいので、使われていない形もないかと思っています。僕も個人的に、あと事業の方でとか、いくつか補助金を活用させていただこうと、色んな資料を揃えないといけないとか、計算がちゃんとしていないとはねられるとか、やっぱりハードルが高いので、わかってはいるけれども手を出し難いっていうところがあるんじゃなかろうかと。特に長年やられてい

るしっかりした団体でしたら、そういうノウハウがあったり、そういうのに長けた方がいらっしゃるとか、有利だとは思うんですけど、例えば若い団体であったり、逆にシニアの団体であったりとか、もうそんなもんわからへんわやってなったら、やっぱり手を出し難いという、だからそこにちょっと不公平感というか、使える人はどんどん使うけれども、使えない人が全然使えてないという、つまりお金があればできたのになあという事業が、そこで諦めざるをえないということが、割とあるんじゃないかというのを感じています。例えば一つ、補助金もいいんですけれども、芸術なので、例えば投げ銭っていう仕組みがあります。例えば、私が住んでおります宮津市には、その昔芸屋台っていうのが各町内にありまして、そのお祭り時分に大きい屋台が巡行して、その舞台の上で子どもたちが歌舞伎を演じるわけですね。それを見ている人たちが、小銭をティッシュか何かに包んで投げてくれるという仕組みがあるんです。それが、子どもたちが面白いと、その金がじゃんじゃん飛んでくるっていうことが、それがモチベーションにもなるし、おっちゃんなんぼ儲かった？っていう興味にもなるっていう仕組みが、だから芸術ではあるんですけれども、やっぱお金がないと運営できていいかないし、お金が儲かったことに対してすごいモチベーションになって、次また頑張ろうっていうことにも繋がってくると思いますし、例えば投げ銭という仕組みを、京丹後市の芸術全般に運用できないかと。例えば何かスマートフォンの中に、京丹後市民の皆さんの１年間の使えるポイントみたいのがあって、それを例えば、お祭りに行って、ここのお祭り良かったなと思ったら何ポイントかそこで携帯等でピットをしたら、お支払いできるとか、そういうもう次の時代の新しい投げ銭制度みたいな、そういうのをこの補助金の予算を使ってできませんか、というのを、若干思ったりもいたしました。それでも偏るとは思いますけれども。あともう１点、広報に関してですが、今はもう皆さんがほぼスマートフォンで生活されていますので、ウェブは外せないところかと思うんですけど、意外とアナログ戦略っていうのが、功を奏することがあると思うんです。例えば選挙カーは、選挙時分しか走らないんですけれども、例えばあれを選挙以外にも走らして今度丹後文化会館でこんなんやりますよっていう、煩いですよ、やかましいと言われますけど、そういうこアナログ戦略も意外とこのデジタルな時代だからこそあえて面白いんじゃないかなと感じました。

事務局　ありがとうございます。そうですね。アナログっていうのも、デジタルの時代だからこそというのがあります。昔は何かこう、旅芸人みたいな人が来たら、やっていましたね、大きな音で。何とかぎりぎり覚えてるぐらいですけれども。WEB 戦略というのはもちろんですし、先ほどおっしゃっていましたこのアナログ戦略っていうのも、ちょっと色んな方法を考えていけたらなと思います。あと、補助金のことですが、投げ銭というのが、市の文化芸術全体への投げ銭っていうことではなく、いわゆる何か活動されてる団体への投げ銭っていう意味だったでしょうか。

委　員　色んなことに使えるのかなと思うんです。もちろん全然使わない人もいらっしゃるし、もう全然足りないっていう人もいらっしゃるかと思うんですけども、要するに市民が京丹後市の芸術文化に私も参加しているよっていう払ってる側で、やってる側じゃなく、それを支援したり、見て楽しんでるとか、一緒にやって楽しんでる側として。自分の腹は痛まないけれども、一緒にやってる感も出るのかなと。だからどの団体にもっていうか、どの物にも使え

るようになったら面白いのかなと思いました。

事 務 局　わかりました。金銭的な部分もそうですし、例えばこのボランティアというのか、色んな催しをするときに、手伝いに行きますよとか、なんかそういうこともありかもしれませんね。ありがとうございます。ちょっと初めて聞くような話でしたので。そんなやり方ができるかどうかっていうのも研究していきたいと思います。

田中会長　今まちのコインというシステムもあったりとかしますしね。私たちも第 8 回のこまねこ祭りというのをやるんですけれども、その時も今年は前夜祭で創作狂言をされる予定があるんですけど、やっぱりそれも誰かお金を出してくださる方があるのかないのか、みたいな。でも自力で私たちもやろうと思って、その中でも投げ銭というのはやっぱり出てきました。それから、ふるさと納税っていうのがあるんですけど、私たちは京丹後市民にはできないんですよね。でも応援したい気持ちっていうのをやっぱりいろんな形で、この文化芸術に対して自分たちが自分たちの市の中で応援するっていうそういう気持ちを、資金の調達の仕方も、何かもしかしてあるのかななんて今お話を聞きながら思いました。

田中会長　他にご意見があるようでしたらお願いします。

委　　員　色々とお聞きする中で、令和 4 年度舞台芸術、体験事業としまして、各小学校だとか中学校だとか、色々と子どもたちが参加して芸術に触れるっていうことをされておられたということと、今年度に関しては網野中学校と大宮中学校が落語ワークショップ等を体験ということなんですけれども、やはりちょっと親心みたいな感じになってしまうんですけれども、京丹後市色々と学校がある中で、その学校運営の仕方とか事業振興の度合いとか色んなことはあろうかと思うんですけれども、やはりこの京丹後の子どもたちが、いつも市長様も言われますけれども誰 1 人取り残されないっていうような、最近そういう文句がよくテレビ等でも聞かれますけれども、どこの学校の子どもたちも同じような形で、こういう文化芸術にもっともっと触れる機会を与えてあげて欲しいなと思います。それが子どもたちの心を育み、京丹後で子どもの頃こんなことを習ったなと、大人になってもまたそれが親しみとして、この京丹後に愛着心っていいますか、そういうことを通してでも、色んなことで湧いてくる部分もあろうかと思いますので、本当に難しいとは思うんですけれどもそういう学校の教育の現場の中に入っていくっていうことは、色々とあろうかと思いますがそういう思いがすごくなんかちょっと聞かせていただきまして、弥栄中学校とかもないなとか、いうような感じで、やはりそういうことをちょっとでも心がけていただけたらいいかなと思います。それと、先ほどおひねりの話があったんですけれども、私自身も宮津市に親ぐらいの世代のお友達の方がいらっしゃって、やはり文化会館に見に行くときは、明日はおひねりを持っていってやらないとと言って。今後藤さんのお話を聞いて、そういう方たちはもう根づいてるんだなっていう、その発表に対して、ちょっとでも見たもんが協力してやらなあかんっていうのが自然と根づいてるんだなっていうのを、その時はえーって思って聞いていましたが、そういう地域性のあれがあったのかなって今、また再度ちょっと発見したようなところです。なんかいい感じだなと思って聞かせていただきました。それと補助金の件に関しましても、先ほど藤野先生が言われましたように、同じ団体がずっと使うとかその状況は私は全然わかりませんが、やはり色んな団体の方に活用していただけるような、記入の仕方もわ

からないとか、難しいとかっていう問題もあろうかと思いますが、そういうことは、指導してあげたりお手伝いしてあげる方がアドバイザーとしておられて、いろんな団体が、補助金を活用して、もっともっとこの文化芸術に取り組んでいけるような形ができればいいかなと思っております。以上です。

事 務 局　ありがとうございます。補助金に関して言うと、文化芸術に関する補助金は確かにちょっと少ないなというところはあります。申請がしにくいとか煩雑だというところは確かにあるなと思っています。私たち職員としては、きちんとお伝えするというのが仕事だと思っておりますので、そこは心がけていかないといけないところかなと思っております。おひねり文化の話とかも、確かにちょっと面白いなと思いましたし、あと小学生中学生の子どもたちへの、文化芸術に触れる機会を作るということなんですけども、ここの1ページ目にもあります本物の舞台芸術体験事業というのが、以前から国の事業で、京都府が間に入って実施している事業です。色んなジャンルのものがあって、舞台であるとか、音楽であるとか、そういったものにプロの方を派遣するというような事業なんですけども、これは市内の小中学校から来て欲しいですと手を挙げられて、全部が全部OKになっていないんです。毎年、4つとか5つとかぐらいなので、満遍なくいくような選定はされているとは思っているんですけれども、全部にいっているわけではない印象はありまして、国の方にもその辺りは要望しているところではあります。この基本方針の一番最初にあげているぐらいでありまして、子どもたちへ質の高い文化芸術鑑賞体験する機会を提供するというところは、しっかりと取り組んでいけるようにしたいなというふうに思っております。

委　　員　おひねりも簡素クラウドファンディングみたいな感じですし、藤野先生も言われたようにこの5年の計画が、ここにおられる方が一生懸命発信していただいて、これをやることによって、次の予算がしっかりとつくような方向でいけたら嬉しいかなと思います。

委　　員　先ほどから感じていたんですけど、安達さんのリサイタルが近々にあったとこういうことを知りませんでした。せめてここのメンバーにはパンフレットぐらい送ってきていただきたかったと思いました。私は連絡協の代表理事として参加させてもらって、10 団体の女性団体がいるんです。そういうところにも何でプログラム等を持ってこないのか、文化会館は怠けていると私は思います。本当にそういうところに宣伝したら、女の口というのは物凄いんですよ。営業のえの字もない。小さい文字に変えたらもうできていると思っているのも、行政の弱いところだと私は思います。それから今日名刺いただいた寺島さんに、育む、繋ぐ、生かすとあります。文化を生かしていかないで、この京丹後をどうこれからしていくのか。私は丹後王国の理事もしていますので、そこでちょっと発言したんですけど、せっかくこの京丹後には歴史と伝説、深い文化があるのに、それがこの丹後王国の中に生かされていない。観光に来ている人は、丹後王国って何だって思っている人が大半だろうと思っています。この頃は車できて、寝泊まりして、卵かけご飯が良く売れるんだそうです。あのご飯は、羽衣天女が教えてくれたご飯だよって教えたら、物語がそこに生まれるじゃないか、これから何千万か何億か知らないけどお金が入るんだったら、物語をつけてちゃんとやっていかないと、食の文化、そういうことも知らない人たちが携わっている。京丹後は、この山に落ちた雨は全部京丹後の海に落ちるんですよって私が言うと、キョトンとしたな顔するんですよ

市役所から来てる人たちが。府の職員も。そんな人が丹後王国をいじくりまわして何千万円もお金を使って欲しくないなと私は思います。だから、育む、教える、伝えていく、そしてそれを使って何かをするということは、もの凄く大事なことだと私は思います。私の孫で長く登校拒否をしていた子が、ニュージーランドに留学しています。言語留学だから2週間ぐらいで帰るんですが、その時にちりめんを持って行きました。小学校4年で生の時に習ったちりめん産業のことを思い出して持っていくと。だからそれが育むです。繋ぐです。そういうことをもっと気をつけてして欲しいと思います。以上です。

田中会長　大変貴重な意見をいただきました。女性連絡協議会は9団体なので、やっぱそこに送っていただくと凄いネットワークがあるんです。強力なネットワークなのでぜひ活用していただいたら、随分隅々まで行き渡るのかなと思います。

委　　員　この資料なんですが、読む気がしない。まず全体、この令和5年度の文化芸術関係事業が、1ページ目でパッと俯瞰できるようにしていただかないと、いちいち一生懸命読んで、そして、アートフェスティバルが何回も出てくるんだけど、その全体像も見えてこない。そうすると集中力が衰えて読む気がしなくなる。やっぱり市民の皆さんにご理解いただかないといけないので、わかりやすい資料を作っていただきたいということです。基本方針1から6まで、やっぱり1ページ目にパッと出てくる。それが何を意味しているのか、何を目指しているのかっていうことがわかるように、全体がとにかく俯瞰できるようにしないと。何回もページ送って行ったり来たりというのは、私はちょっと苦痛だなと思っておりますのでそのようにしていただきたい。それから、やっぱりメインの事業であるアートフェスティバル、これはしっかりと見えるように、わかるようにしていただかないといけないのではないかと思います。以上です。

委　　員　ちょっと思ったんですけど、アートフェスティバルっていう名前がちょっとダサいかなあと。アートフェスみたいな略し方を想定されているんですかね。もう名称は決定ですか。何か京丹後市アートフェスティバル何々みたいな。この会で話してもいいと思いますし、もうちょっとおしゃれにしてもらえたら嬉しいな。行こうかなっていう気になるっていう。パンフレット次第ですけど。昨年度だと思うんですけど高龍小学校が小さい冊子を作っていたのをご存知ですか。古墳だとかをまとめた冊子がすごく素敵だなと思って。あれって他の小学校全部でできたりはしないんですか。島津小学校も是非したいなと思って。

事 務 局　ちょっと文化財の方からすいません。今藤原委員さんがおっしゃっていただきましたのは文化財保存活用課の方で、京都府立大学の研究事業の共同事業でアクターという事業がありまして、久美浜の川上地区にあります、湯舟坂2号墳という古墳があるんですが、そのプロジェクトを京都府立大学が研究を進める中で、交流小学校の児童にも参加をしていただいて冊子を作りました。内容が「ＡtoＺ」アルファベットのＡからＺまで頭文字が26ですが、全ての意味を持っているということで、良い冊子を作っていただきまして、府立大との共同事業の関係もありまして、ちょっと今島津小でもできるという返答ができかねるんですけど。

委　　員　冊子にしなくても、普通に印刷でもいいので、各小学校でそういう、カリキュラムじゃないですけど、丹後学を小学生がまとめるみたいな成果物でができたら凄く素敵だなと。それを

例えば回覧版で町の人たちに見てもらうとか、そういうふうにしてちょっと歴史文化を小学生から学んでいけたらすごい素敵だなと思ったのと、さっき網野中学校と大宮中学校しか舞台芸術が鑑賞できないんですかっていうのがあったんですけど、他の中学校と合同とかっていうのはできないんですかね。人数の違いとかもあると思うんですけど。

事 務 局　来ていただく日付というのが決まってしまっていて、あとワークショップなので、あんまり広いとこでするものでもないというのもあったりして、今回も網野中学校の場合だと、2年生のみになります。昨年度は、峰山中学校でしています。例えば中学校だったら6つがいっぺんにできたらいいんですけど、やっぱりちょっと物理的にも日程的にもできないということで、やむなく中学校の校長会さんに順番を決めてもらってしているというような状況で、ただ今回大宮に関しては、すぐ隣がアグリセンターで、落語会の会場がアグリセンターなので、ちょっと広いところでやってみようということで、1年生と2年生と全員が見れるというようなことにできて、なるべく大勢の人に見てもらいたいというのはありますが、ちょっとそういう事情も実はあります。

委　　員　何かその他の中学校と交流の機会ってなかなかないので、そういう文化芸術っていう意味で交流ができたら、中学生にとっても毎年の楽しみみたいになるんじゃないかなとちょっと思ったのでお伺いしました。

委　　員　私このアートフェスティバルっていうのはいいことだなと思うんですけど、期間がおよそ半年間ありますね。飽きないための工夫を、パンフレットで何とかしていただくという方法があればそうしていただきたいですし、どういうふうな感じでプログラムとして出されるのかわかりませんけど、飽きてしまわないような工夫をお願いします。

委　　員　アートフェスティバルのことですが、これは誰が出されるのかちょっとよくわかりませんが、共生という意味でもですが、身体障害者ですごく絵の上手な人とかあるんですね。あの人たちの書いた絵が私大好きなんです。そういう人達にもぜひ呼びかけて、健康な人だけの絵で収まらないようにして欲しいなと思います。

事 務 局　今回一緒に取り組みをしましょうということで、障害者施設などで書かれているアート作品として、ちゃんと額縁にも入れて飾っていただいているようなものがあるので、これをアートフェスティバルのＰＲもさせてもらったりするということでしております。実は今年度は、そういった団体さんの取り組みに対する補助といいますか支援も少しさせてもらうことにしております。

※5分間休憩

事 務 局　京丹後アートフェスティバルの方が、先ほどの資料も本当にわかりづらくて、今担当が作った資料をお配りさせていただきましたので、事務局からちょっと説明をさせていただきます。

（事務局より説明）

田中会長　ではこの資料はまた改めて皆さんお目通しいただいて、まだ作成途中ということなので、次の方に入らせていただきます。そうしましたら 4 番の京丹後市の都市拠点構想について事務局の方よりお願いできますでしょうか。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　ありがとうございます。冊子の方が盛りだくさんになっていまして、今日初めてお目通し頂

いているんだとは思いますけれども、ご意見等ございませんか。

委　　員　新しいものを建てるということではなくて、統廃合されて空いた小学校や中学校を活用したことができないのかなっていうのを以前から思っていまして、ちょうど娘が愛知県の方におりまして、そこの地域には小学校をちょっと耐震とかそういうのでどうしても直さないといけない部分はできてくるんですけれども、結構、小学校ってバリアフリーな感じですよね。例えば1階のスペースは教室に入るのも結構バリアフリーな感じで、ここに書かれているような機能は全部持っているんですね。カフェがあって、パスタだとか、窯でピザが焼けてそこで食べられるとか、ピアノが置いてあって、お食事をしてる人たちやおしゃべりしてる人たちのところで、ピアノを弾いたりとか。本当に時間があったらまた見に行っていただけたらいいかなと思うんですけれども、そこは1階が大体お年寄りから、赤ちゃんお母さんとかが入りやすい形のスペースになっていまして、2階が図書室になっています。そして3階が会議をしてもいいですし、子どもたちが勉強に使ったり、パソコンのWi－Fiの設備も全部整っていまして、パソコンを持ち込んでそういう学習をしたりっていうようなお部屋になっていまして、赤ちゃん連れのお母さんなんかは半日とか、長くて1日ぐらい、本当にそこでのんびりと過ごせるっていうようなところがありまして、おばあちゃんとかでも、お友達と来て、一緒にそこでお部屋の一角で編み物をしておしゃべりをしたりとかっていうような感じでちょっとしか見てないですけれども、たまたま私が孫と行った時もそんな雰囲気で、とても自由な、そして何時間居ても無料ですごく過ごしやすい空間になっていたんですね。そして体育館は、もちろんスポーツ、バレーだとかバスケだとか、そういうのを学校が終わる大体夕方ぐらいからになりますけれども、コーチの先生が来られて、子どもたちがそれぞれ集まって、そこでスポーツを教えていただいてるというような感じで、あと平日は色々な催し物もそこでされていて、今日は子ども向けの何々を作ろうっていうのが何時からありますとか、親向けの年配いうかね私たち向けのこういう教室がありますっていうようなのが、お知らせとしてその掲示板に貼ってあって、それを見たりして参加したい人は参加するっていうような形で、本当に朝から夕方まですごく自由にフリーな活用をされています。京丹後も統廃合で小学校が空いていく中で、どうしてもその都市計画っていう部分では、中心地の方のところにはなってこようかとは思うんですけれども、何でも建てて新しくするっていうのは使うものにしても気持ちがいいことですし良いんですけれども、やはりあるものを利用するという部分でも、当然お金もかかってくるんですけれども、そういう活用ができたらいいなといつも感じています。

委　　員　前に見学に行きましたね。もうあそこがすごく素晴らしくて、図書館も充実していて、インターネットなんかもね。子どもたちがそのスペースで自由に勉強もできるし、劇場があって、芝生がもう素晴らしく広くてね。こんな施設が京丹後市にあったらとってもいいのになあという思いがあって、せっかくそういう場所があったら、是非そういうのを作っていただきたいなあっていう思いが今すごくしています。予算の関係もあるんですけど、是非参考にしていただいて、お願いしたいと思います。

藤野ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　点で今、お話をされていますけど、周りにどういう文化施設があるか、それからそのロジスティックと足の便でもってどのぐらいの距離のところにどういう施設があるかっていうと

ころも踏まえた中で考える必要があるのかなと思います。先ほどおっしゃったように、廃校を利用するのはすごく魅力的なことで、わくわくするようなことあるんですけれども、ある一定の地域でもって、例えば千人集まれるようなところが全くないとすると、それはそれで色んなイベントをやるときに困ったりしますよね。今、丹後文化会館の老朽化を考えると、これができるまで持たせるのも結構大変な時期じゃないかなというふうに私は思います。それを考えると、この複合施設を新しく作るっていうのは、結構僕は意味があることじゃないかなと思います。今お話がありましたように、養父の施設は、隣の市ですけど私もあそこは好きでよく行くし、結構講演の中身もいいものをやっていますし、成功例だと私は思っています。市長も随分ご自慢のようでして、ちょうど昨日もやりましたけれども、豊岡市は市民会館がもう 50 年経つので建て替えをずっと計画していました。市長が交代になってちょっと 2 年ほど中断したんですけど、いよいよ実施設計ができて、今年度から管理運営委員会が始まりました。昨日もその市民ワークショップをやったんですけれども、2025 年に市民会館、新文化会館が豊岡にはできます。791 席の大ホールと 200 席ぐらいの小ホールプラス市民ギャラリー、総工費が 65 億円と考えていますが、かなりいろんな補助金を使うと、市の持ち出しはおそらく 20 億円ぐらいで済むんじゃないかと言われています。なので、今あるものも持たせるよりも安上がりにできるっていう見込みで、豊岡は新しいホールを作ることを考えています。私はいくつか色んな地域のそういう計画に関わっているんですけれども、最近やっぱりこれは一番先端的でいいなと思ったのが、大阪府茨木市、人口 30 万人弱ですけど、そこが通称で「おにクル」っていうのを作りました。もうすぐ竣工いたします。かなり複合的なんですが、子育てもあるし市民交流もあるし、それから 1200 の大ホールも入っているし、図書館が吹き抜けでワーッとある、芝生があり、プラネタリウムもあります。茨木市の駅はＪＲと阪急との間で、10 分ぐらいで行けるんですけど、その市役所の目の前にできる施設で、建物も伊藤豊生さんというすごく有名な建築家のもので、僕は、これは今日本の最先端の複合文化施設じゃないかなと思いました。ちょうどその指定管理に今から 1 年ぐらい前に関わらせていただいたんですけれども、これは多分成功するだろうなと思っています。茨木は北摂の中でも色んな人の取り合いになっていて、あの辺り人口全体的に増えるんですけど、その中でもやっぱり茨木が子育て支援も頑張り、人口を増やそうという戦略のもとで作られている施設ですので、150 億円ぐらいなのでちょっと規模がでかすぎるかもしれませんが、一度視察に行かれるといいと思います。あらゆる機能がついていて、ちょっと夢のような施設です。情報提供でございます。

委　　員　さっき養父の視察に行った施設の話が出て思ったんですけど、この「ココタン」ができたときに思うことは、親の立場として、美術館に行くの大好きなんですけどやっぱり赤ちゃんや子どもがいたら、気を使って全然いけないんですよ。なのでこの子育て広場の中に美術館があるような、例えば床下だとか天井だとか壁の高いところに作品があって、子どもが触れられないけど見られるところにあるとか、そういう感じで子育て層が楽しめる美術館があったらいいなってずっと思っていました。写真集とかも分厚い絵本のボードブックみたいな写真集がずっと欲しいなって私は思っていて、子どもがめくっても破れない写真集が欲しいなと思ってるんですね。あと、養父の演劇のホールも、子ども席とかファミリー席があり

ましたよね。あれを見て思ったのが少ないなって。1家族か2家族入ってしまったらもう終わりなんで。それを例えば、広い子ども席で何家族でも入れますよみたいな観覧席があったらとてもいいなと思いました。

委　　員　私が先ほど言わせてもらったのは、この内容でのことだったんですけれども、私も養父の方に一緒に視察に行かせていただいた時は、ホールもあり、本当に総合的な施設なので、そうでしたら、やっぱり今の文化会館も利用させていただくには、駐車場の問題もありますし、同じお金を使うのであれば、そうやってもうこの京丹後市がどうのじゃなくてやはり府も巻き込んで、文化会館も一緒になったような総合の施設を作られたらいいんじゃないかなと思います。以上です。

田中会長　ありがとうございます。若い方たちのワークショップが開催されたり、それから市の方も各中学校に出向いて、中学生の意見も全部聞いていただいて、会議に出ているメンバーだけでなく、随分行政の方が足を運んでいただいて、これから自分たちのまち、市への期待というか、誇りに思うところ、随分と電車が不便なところでありますけれども、そういうことにかかわらず、多分「ココタン」ていうのはここに丹後っていう、参考には奈良の国府ですかね、そこのイメージだったり、それから丹後は高速降りてきての中心のところなので、丹後をみんなの憩いの場というか、丹後を知っていただく第1の場所にっていうような話も、若い子たちが積極的に会議にも参加していただいています。子育てと、それから図書館。網野のように新しくできている図書館もありますが、どうしても老朽化が進んでいて、大宮、峰山、弥栄。本当に養父も羨ましい限りでしたけど、面積は限られているんですけれども、もっともっと広く取ってもらって、山ほど施設が出来ればですけれども。そういうこれからを担う若い人たちの意見も、随分行政さんの方が拾っていただいてたようです。せっかくなので、最新のこともですし、思いをここに、次のまた会議の時に持って行かせていただきたいと思いますけれども。他にご意見等ございませんか。

委　　員　20 ページの地図を見て、立地的なところなんですけど、高速道路から降りてきてのその流れだとは思うんですが、最初交差点がありますと。その次に、市道を改修をするためにもう1個交差点ができてしまうということなんですよね。これはもう市道はもう絶対に改修するという前提なんですよね。ということはこの赤い四角いゾーンが道路で分断されてしまうので、一つもったいないなと思うのはそこと、例えば地下なり上を通すなり何かできたら、広い一つのエリアになるのになもったいないなっていうのが一つと。あとどのみち、最終的に三差路で交差点が入って、ここで信号ができて車が一旦ストップしてしまうわけですよね。ここの赤いスペースに何が建つのかわからないですけれども、せっかくなんで渋滞をするであろうということを逆手にとって、例えばプロジェクションマッピングみたいなものをやってみるとか、つまり信号で待ってる人が、何だこれはっていうふうに、楽しんでいただける。それを1年間で、春夏秋冬でストーリーを変えながら、例えば丹後7姫のストーリーを絡めたりとかしながら、地元の人は最初の交差点で、どうせ混むからって言って横行くでしょうけれども、観光でおいでになった方は、まっすぐ三差路まで突き当たりまで行かれると思うので、待っている間にも楽しんでいただける仕掛けがあれば面白いかなと思いました。

甲斐ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　先ほど藤野先生がおっしゃっていた建物は伊藤豊生さんの設計ということで、ちょっと私も何個か参考事例としてご検討いただきたいなと思ったのが、山口にある通称「YCAM」山口メディア芸術センター、そこは磯崎新田さんの設計でビッグウェーブと地元の方から呼ばれている曲線が美しい建築物です。町のシンボルとなるようなものとして、設計士さんをどなたかを今から選定になられるのかなと思うので、そういった事例も参考にしていただければと思いました。それとあともう１一つ、フィンランドのヘルシンキにあるOodi という文化複合施設なんですけれども、そこは建築物としてのデザイン性の高いものがあるんですけれども、施設の内容として、ものづくりラボがあるっていうところで、3Dプリンターとか、レーザーカッター等があって、市民の方が自由にものづくりができるような環境が凄く整っています。ものづくりの丹後っていうところで、そういう環境があるといいのかなっていうのを感じました。それと 21 ページに、文化芸術、スポーツ活動施設、そして演劇、ダンス、音楽会活動、あとスタジオ等もあるんですが、音楽、それぞれにそのスタジオを使える特別な部屋っていうのができるのかどうか、これはまだ今から検討されると思うんですが、色んなギャラリースペースになったり、一つのスペースを多目的に使えるようにできたら、大きなホールの中を区切るよりはいいのかなと思いました。あとは、自然も取り入れた形で、芝生の広場であったり、そういったものとのバランスもすごく重要かなと思いますので、その辺りを検討していただければいいのかなと思います。以上です。

委　　員　京丹後市の人口が、急激に減っているという現実を皆さんご存知ですよね。これは何年後にできるのか知りませんが、さらに減るだろうということであります。10 年ほど経つと、誰も利用しなくなるみたいな。今のは大げさな言い方でありますけれども、そこに数十億をかけるということですよね。やっぱり活性化をするというところが目的なんだろうと思うんですよね。活性化と、それからやっぱり我が町を大事にするというか、それにはやはり子育てです。他に成功事例がいっぱいあるんですよね。そこはやっぱり子育て支援をものすごく丁寧に、しっかりやっているんですよ。当然その子育て支援の中には、教育もあるし、文化もあるし、そこを本当に考えて作らないと、まちづくりに寄与するとは言えないんじゃないかなと思います。21 ページ、子育て支援、核となる施設となっていますよね。これはもっと大きい黒丸に。そしてせっかくインクルーシブという言葉を使っているんですから、やっぱりそこもすべての関係だけではなくて、やっぱりここも大きな黒丸をつけていただいて、核となるものっていうふうにしていただきたいというふうに思います。どうあれ、子育て支援がしっかりしているまちづくりをしないと、こういった施設を作っても、宝の持ち腐れになってしまうんではないかというふうに思いますので、子育て支援をよろしく。

田中会長　ありがとうございます。子育て支援で田舎だけど成功したところ、岡山県奈義町、岡山でしたかね。そういうところを参考にしていただいて資料があればですし、私もちょっとこないだ色んなところを見る機会があって、21 世紀美術館にやっと行けたんですけれども、すごい人でした。あそこは新幹線が来ていることもありますが、やっぱり若い人たちがすごい並んでいたので、自信を持ってここは皆さんの意見を反映していただけるような施設が、幾らかかるのか恐怖ですけれども、思い切って地下でも何でも要望していきたいと思います。

委　　員　先ほど藤野先生がお話しくださった、茨木の新しいホールのことですけど、茨木は子育て支

援充実度が素晴らしいんですよね。京丹後市も何回か講師をお招きして私たちも勉強させてもらっているんですけど、私は子育て支援の中にも入っておりまして、その方たちからもいろいろ指導を受けたりしておりますし、実際に行かせてもらったこともあるんですけど、やっぱりその子育て支援に充実している、若い人が多い、どんどんやってくるっていう、そんな地域なんですよね。京丹後市だって先ほど言われたように人口は減っています。でもこの建物を建てることによって、また、子育て最中のお父さんお母さんがパッとこっちへやってくるような、そんな建物ができると夢がいっぱい広がりますね。嬉しいことです。

松本副会長　黙っているつもりでしたが、図書館の関係もちょっと議事録に残して欲しいと思って発言させてください。公共施設の図書館なんですけども、子育て支援ということもあるんですけど、子どもが幾ら騒いでも、寝転んだり、遠慮せずにやれる子ども図書館っていうのがあるんですよね。先進事例もあると思います。例えば九州の武雄というところの図書館は、近隣の 1 時間範囲に住んでいる方が待ち合わせ場所にする。図書館が待ち合わせの場所っていいじゃないですか。その図書館には、もちろんカフェも入っているんですけども、そこには子ども図書館っていうのを別棟で建てまして、専門のスタッフが、要するにその子どもに読み聞かせをするだけじゃなくて、ここに来るといいよっていう子どもの育ちの場所に。スペースをつくるプラス、そこに携わるスタッフの方が、北近畿から子どもがみんな行くんだったら、あそこだねっていうような、その建物と中のその運営をスタッフも含めた、今から日本で一番先進の図書館を作るってことになれば、今櫛田さんがおっしゃったように、相当な金額をかけて、これはまちづくりの大きな勝負の施設になるので、北近畿一円から子どもたちを連れて、丹後に集まろうというような、そんなふうな図書館をぜひ作ってもらえれば、子育て支援というものプラス、もっとさらに先を広がるような、そんな運営も含めた図書館のあり方をここでリードするようなものにしてもらえたらいいかなと思い、そんなものが欲しいなと思っています。是非それも検討の課題の中に入れてもらうと嬉しいなと思います。

田中会長　ありがとうございました。都市拠点の方のお話しについて、ご意見はよろしいでしょうか。

委　　員　私、図書館委員の方からきているんですけれども、この間 3 月の末に会議があった時もこの話が出まして、図書館委員の会長も副会長もこの委員の中に入ってないということ、あなた知ってるって、私は何でもない委員ですって言ったんですけど、誰が行ってるのって聞くと、誰も行ってないということで、図書館ができるというのに、どなたもここのメンバーに入っていないということは、これから先なのですか。

事 務 局　今度の会議は入られます。

田中会長　そうしましたら、皆さんから今いただいたご意見メモをいただきましたら、なるべく早くお伝えをして、先進事例もネットで皆さん今は検索できるので見ていただいたらいいかなと思います。それでは、ここでこちらの方はお終いにさせていただきまして、無いようでしたら事務局の方にお返しさせていただくんですけれども、その他何かございませんか。

事 務 局　文化財保存活用課の方から、お手元に追加で資料を配らせていただいております。文化芸術振興計画とは連携をすることになっています、京丹後市文化財保存活用地域計画というのを、昨年の 12 月に文化庁の認定を受けまして、今お手元にお配りしておりますのはカラー

の概要版になりますけども、これを作ることができました。3 月に同じタイミングでこちらの製本もいたしまして、今回この概要版をお手元にお配りさせていただきました。文化財の保存活用に関しましては、去る平成 30 年の 4 月に文化財保護法という法律が改正されたわけですけども、それによりまして各市町村はこの文化財保存活用地域計画っていうのを、任意ではありますが制定することができる、またそのことによって今後の文化財の保存活用の方向性を市としても示していくということで、京都府内で 7 番目になりますが作ることができました。本市ではこの令和 3 年 4 年度 2 ヵ年をかけて、この地域計画を作っていったわけですけれども、この令和 5 年の 4 月から名称も文化財保存活用課と名前を変えまして、合わせてお手元にもう 1 枚ペーパーをお配りしておりますが、4 月 1 日付けで歴史文化都市宣言というものもいたしました。これは市内の歴史文化や、文化財ですとか、また地域で育んできた暮らしの知恵や、人々の営みともいえる息遣いを、京丹後市のきらめく魅力としての光ととらえて、この計画を持って歴史文化を生かしたまちづくりの推進に一層努めて参りたいというふうに決意をしたものでございます。こちらの紹介をさせていただけたらと思いました。ちなみにこの歴史文化都市宣言、最後に一文ずつ三行書いてありますが、すべて最後には育みます、繋ぎます、活かしますというふうに書いております。これは文化芸術振興計画の中にもある言葉を取らせていただいて宣言したものでありますのでご紹介させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

田中会長　ありがとうございます。事務局にお返しする前に一つ、私もこの報告会を見に行かせていただいて、素晴らしいなと思って帰ってきました。この間、先ほども色々と地域を見てきた中で、私事ですけど 10 年前に屋久島からこちらへこられたお客さんが、先日 7 月の 5、6 と、屋久島からの方がもう一度丹後にこられて、地域の神社をご案内してくださいということでちょっと普通で考えられないような経験をされて、なぜ丹後なんですかということをお尋ねしたんですけれども、屋久島のようなエネルギーのあるところ、いや丹後はすごく神々がたくさんいるところなんですっていうことをおっしゃったんです。今回も他のアーティストの各メンバーや染色作家の方と一緒に、その方の随行を一緒にさせていただいたんですけど、ちょっと経験しないようなことも私も身をもって経験したんです。なので、旅のしおりを書いてくださいというお客様がそのあとありまして 2 冊ほどお泊まりのお客さんからお預かりしたんですけれど、いつも、我が家のものを切ったり張ったり、日本遺産だったり縮緬とか書くんですけれども、神々の里長寿の京丹後市と書いて、このご縁に感謝ですということ書いたんですけれども。歴史文化ベースじゃなくて、こういう育まれたところに神々本当に豊かなそういう、ちょっと想像できない初めての経験でしたので、本当に神神様の声を聞かれるような方だったんですけれども、その中に歴史文化財とこれは分けるものではなく本当にここに今、育みます、繋ぎます、活かしますと書いてもらいましたけれども、そういう地にあって、文化芸術が脈々と、今は私たちもこうして審議会の中でご一緒させていただいてるんだなと思いをちょっと新たに思っております。この会議でのご縁も大切に、皆さん一緒になって京丹後は、私は日本をぐるっと回ってきた中で、後ろの国ではなくて、いやいや丹後はこれからですよと、台湾とのハーフの方だったんですけれども、これからここがとっても大事なところになりますという言葉をいただきましたので、ちょっと鳥肌が

立つような経験をしましたので、ちょっと共有をさせていただきたいかなと思います。

事 務 局　皆様からも多くのご意見をいただきました。本当にありがとうございます。きちんと記録をしておりますので持ち帰りまして、資料の作り方もまたちょっと今後しっかりと考えたいと思っております。そうしましたら、閉会にあたり松本副会長様からご挨拶いただきたいと思います。

松本副会長　皆様お疲れ様でした。この審議会も計画づくりから皆さん本当にご順々ご尽力いただいたんですけれども、今後はより高い場所から、計画がちゃんと進んでいるのかとか、それからここがもっと足りないじゃないかとか、そういったようなお目付役の役割をいただいたと思っています。それぞれの立場で皆さんいろんな組織で活躍しておられる方ばかりが集まっておられる審議会ですので、本当に広い範囲からこの文化や芸術の振興を見守っていただくとともに、応援してもらうといった意味で、これから皆さんには審議委員としてお力を借りたいと思っています。今年、計画ができまして、いよいよアートフェスティバルという新しい取り組みも始まりました。もちろん手探りで色々とやりつつ、見直しつつ、そして高みを目指すという形になって参りますけれども、どうか皆さんと一緒になってこの文化技術がこれからどう変わっていくかというのを、ワクワクしながら、見守りつつ応援していきたいと思っております。引き続きどうか審議委員の皆様にはよろしくお願い申し上げまして、終わりの挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

事 務 局　以上をもちまして、令和５年度の第１回文化芸術振興審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。